

地域社会と学校の協働で子どもたちに豊かな教育環境を！ ～学校の教育活動を支援する「地域教育サポート・ネット」づくりのススメ～

I 「総合的な学習の時間」で変わる学校

平成14年度には新学習指導要領が実施され、「総合的な学習の時間」が学校教育に導入されました。（高等学校は15年度に導入）

「総合的な学習の時間」は、知識を教え込む授業でなく、①自ら学び、自ら考える力を育てること、②学び方や調べ方を身につけることを目的としています。授業の組み立てにあたっては、従来の教科学習の枠を取り払い、自然体験やボランティア活動をはじめとした社会体験などの学習を通じて問題解決的学習を行うこととなります。

各学校においては、地域や学校、子どもたちの実態に応じ、創意工夫を生かして特色ある教育活動を展開することが求められています。



“日本の音楽を楽しもう”
ゲストティーチャーによる授業

II 地域の力を学校に！

「総合的な学習の時間」では、グループ学習や異年齢集団による学習、地域の人々の参加による学習や地域の自然や施設を積極的に生かした学習など多様な取組が求められています。

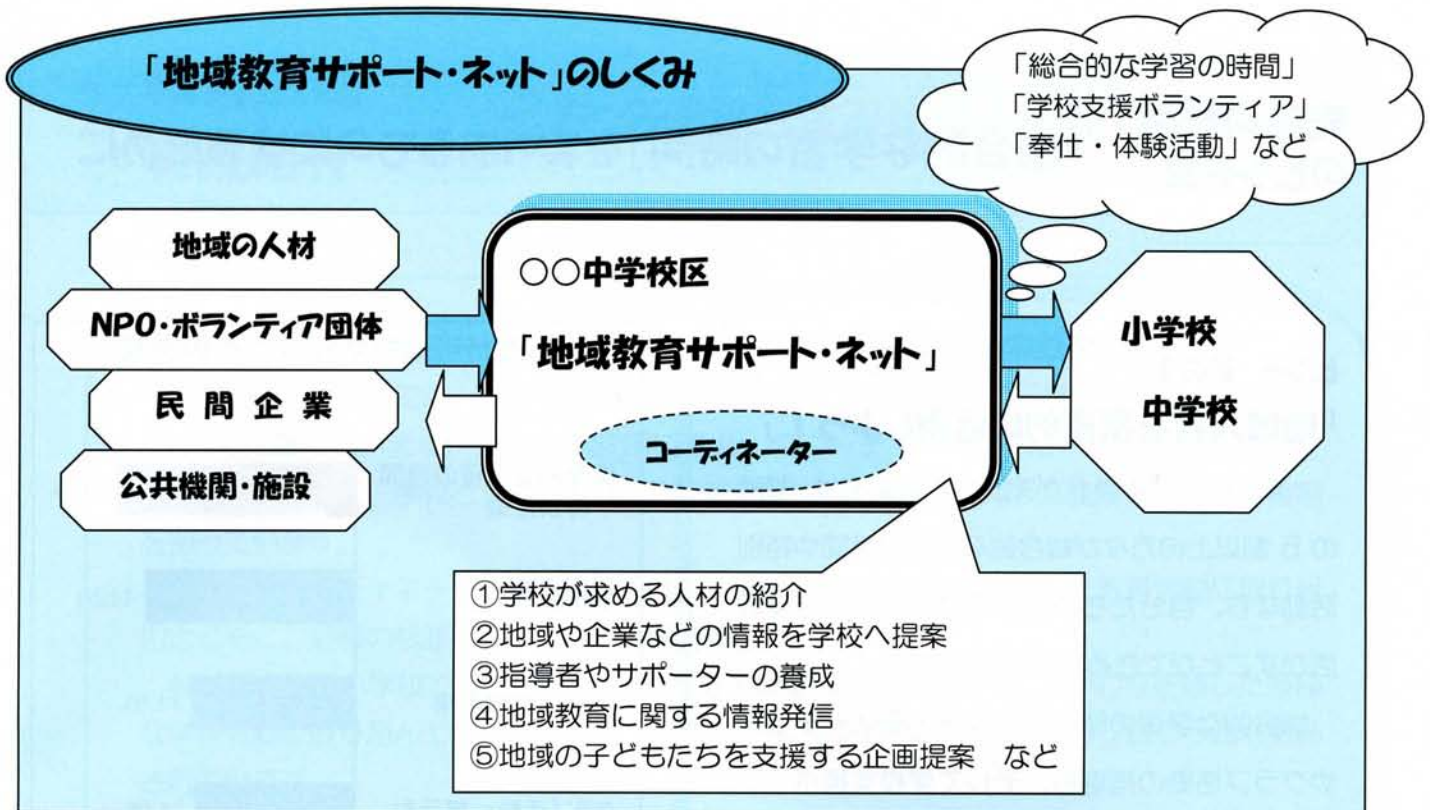
この取組が成果をあげ、子どもたちに豊かな教育環境を提供するためには、地域みなさんが「ゲストティーチャー」や「学校支援ボランティア」として、積極的に関わっていくことが求められています。

III 学校と地域の協働をすすめるためのしくみ ～「地域教育サポート・ネット」～

「総合的な学習の時間」の実施を機に、「福祉」や「環境」そして「国際理解」など多岐にわたる NPO や地域のグループが学校と連携した取組をしたいという要望が多く出されています。学校の側でも、地域の力を借りて多様な教育活動を行いたいという希望をもっています。

しかし、現状では学校と地域の協働はなかなか進んでいません。その原因には、学校のニーズと地域のニーズの“ミスマッチ”があると考えられます。学校が地域の力を借りて多様な教育活動を展開しようと考えたときに、学校のニーズに対応した地域のプログラムが用意されていないのです。

この問題を解決するため、東京都教育委員会が提案した施策が「地域教育サポート・ネット」です。これは、地域の多様な社会資源と学校とのコーディネート活動を地域住民のみなさんに担っていただくというものです。



「地域教育サポート・ネット」の取組事例

「地域教育サポート・ネット」は、東京都教育委員会モデル事業として、都内5地区（杉並区、板橋区、足立区、立川市、小平市）で、平成14年度から実施しています。
 それぞれの地区では、地域の実情に応じ、多様な活動が展開されています。以下に特徴ある事例を紹介します。

